

哲学とは何か

りました。名大では哲学や生命倫理の授業を担当しています。そこで本コラムでは、自己紹介もかねて哲学について考えてみたいと思います。

哲学は実に不思議な学問です。言葉は広く知られているにもかかわらず、いざ「哲学とは何か」と問われると、明確に答えられる人は多くありません。哲学の授業でも、他の授業と

は異なっており「哲学とは何か」の言葉足らずな説明から出発しなければなりません。

ただし、その「うまく説明できなさ」こそが哲学の出発点であるのです。答えがすぐに見つからない問いに向き合い続けること自体に、哲学の特徴があるからです。

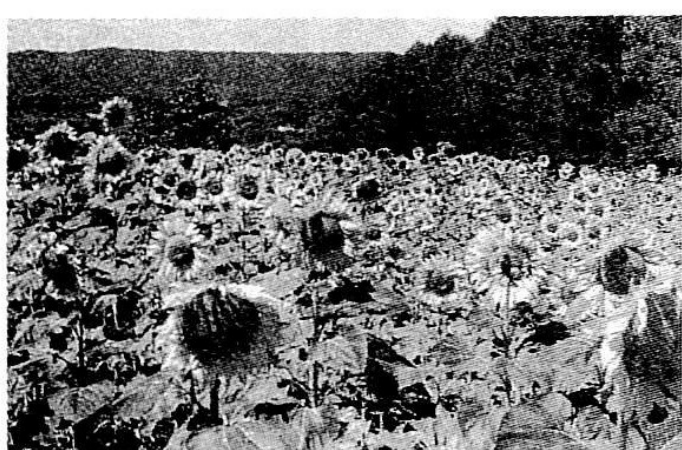
し、元々の意味は「知を愛する」というものでした。ここでの「知」とは、単なる知識の集積ではなく、世界や人間のあり方を根本から理解しようとする営みを指しています。

すなわち哲学とは、「知りたい」という人間の根源的欲求を指すために作られた言葉だったのです。また、この「知りたい」という思いから、やがて様々な学問が生まれていきま

した。だから「哲学はあらゆる学問の根源である」とも言われているのです。

では、現代社会において哲学はどのような役割を担っているのでしょうか。それは、私たちが何かを考える際の前提として、どのような知や価値をあらためて問い直すことにあると言えるでしょう。

何が正しく何が善いのか、どのように生きるべきなのか、そうした問いにすぐには答えを与えるのではなく、問いそのものを深め続けること、日々の生活の中で当たり前だと思っていることに立ち止まり考え直すこと、そこにこそ現代における哲学の意義がある



るので

私自身

もこうし

た問いを

学生とと

もに考え

続け、ま

た地域に

開かれた

大学の一

員として

それぞれ

の「知り

たい」を

深めるこ

とに貢献

できるよ

うに、教

育と研究

に取り組んでいきたいと

考えています。

教養教育部准教授

南 孝典

この4月から名寄市立大学の教員として新たな生活が始ま